

# Minecraft Education Editionを 活用した授業【自立活動】



つくば市立春日学園義務教育学校  
特別支援教育コーディネーター  
教諭 山口 祐恵

# なぜ、自立活動でMinecraft EE？

## 【理由】

支援学級の子どもたちも、  
マイクラが好きだから！！



## 指導要領の自立活動

「児童又は生徒が興味をもって主体的に取り組み、  
成就感を味わうとともに自己を肯定的にとらえるこ  
とができるような指導内容を取り上げること。」と記  
載あり

しかし、  
そのまま導入したのでは、  
一人で黙々とゲームをする  
活動になってしまう！！

# どう取り入れていくか？

◆特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動  
【指導計画の作成と内容の取扱い】より

個々の児童又は生徒について、  
障害の状態、発達や経験の程度、  
興味・関心、生活や学習環境などの  
実態を的確に把握すること。

特性の  
把握

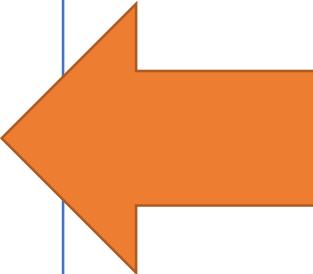
個々の児童又は生徒の実態に応じた具体的な指導方法を創意工夫し、意欲的な活動を促すようにする  
ものとする。

ねらいと  
手立て

# どう取り入れていくか？

◆特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 第7章 自立活動  
【内容】6区分26項目から

1. 健康の保持
2. 心理的な安定
3. 人間関係の形成
4. 環境の把握
5. 身体の動き
6. コミュニケーション



子どもたち  
一人一人の実態に  
合わせて選ぶ！！

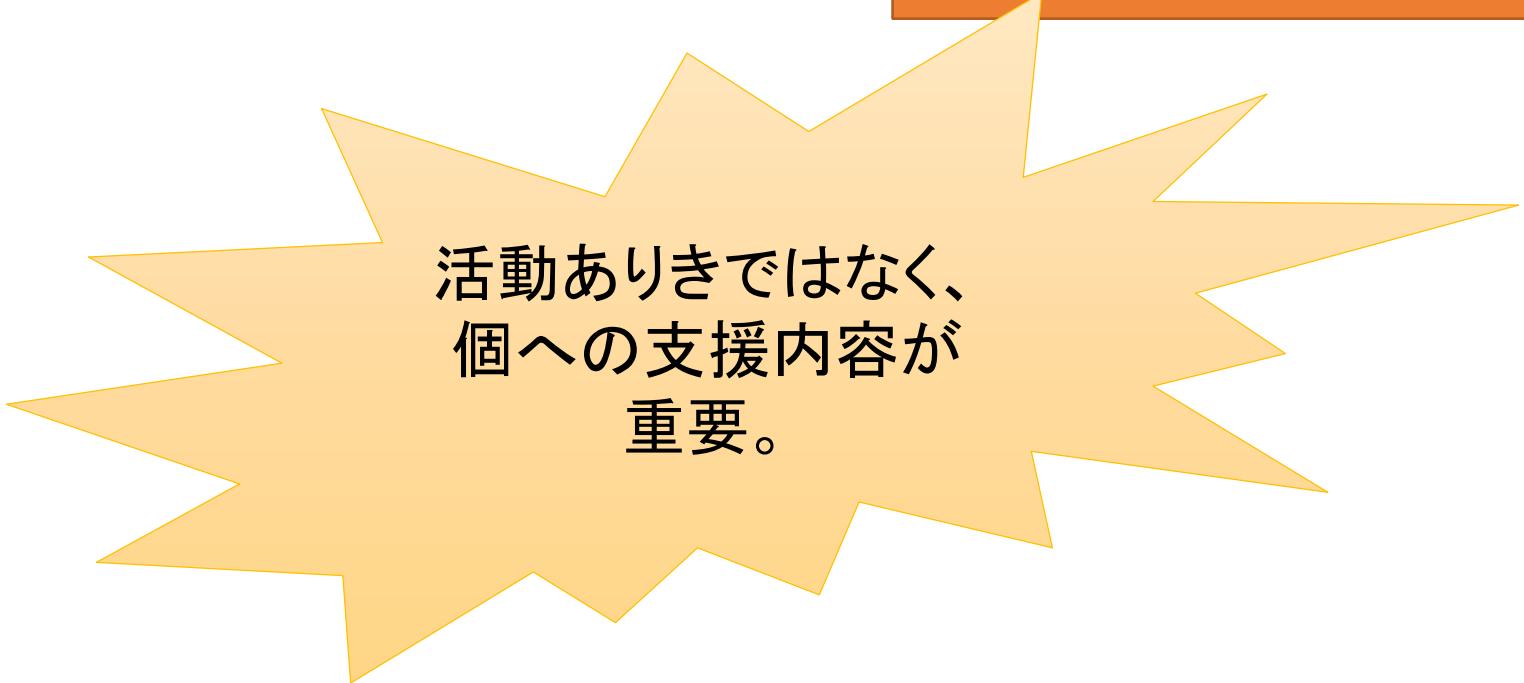
# 個別か小集団か？

①対象児童生徒の検討

一人一人の課題を明確にする。

②小集団での活動内容の  
検討

1人でも効果があれば、個別に。  
小集団での効果が予想される  
のであれば、小集団に。



活動ありきではなく、  
個への支援内容が  
重要。

# 対象児童生徒は？

A児(7年生)



C児(3年生)



B児(5年生)



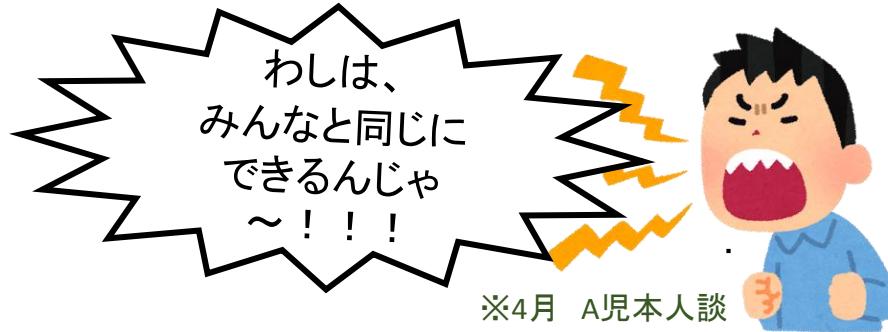
D児(3年生)



今回の活動は、対象児童生徒4名  
(7年生1名・5年生1名・3年生2名)

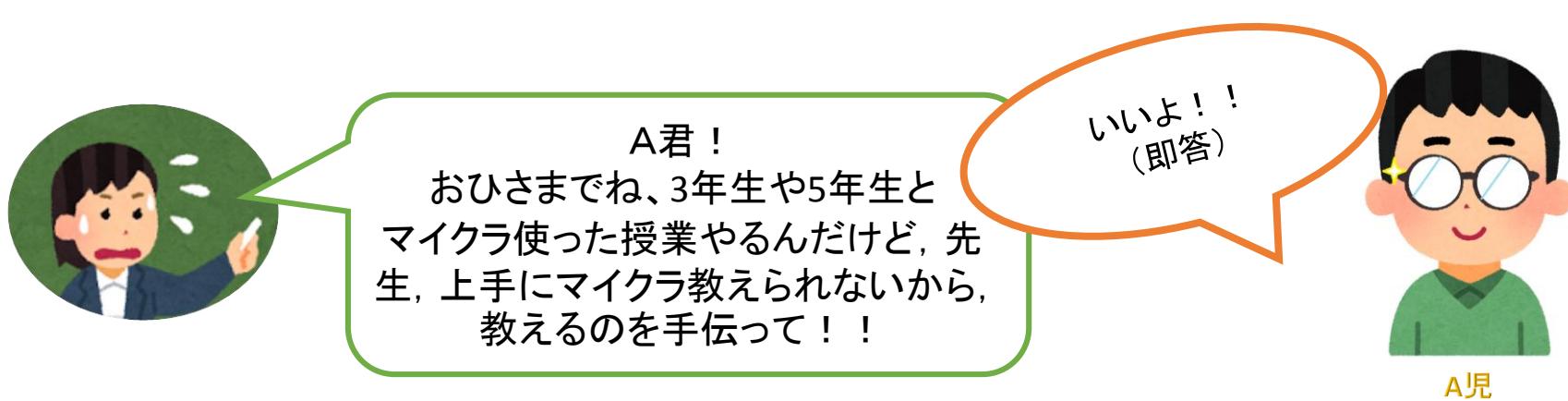
※本学園は1～9年まで在籍の義務教育学校なので、  
小中連携での学習活動が日頃より可能。

# A児(7年生)



## ■特性など

- ・本来は支援学級在籍だが、思春期に入ったのと、「みんなと同じ」にできるというこだわりが強くなり、支援学級に行かなくなってしまった。
- ・以前から同学年の生徒たちには好かれており、通常学級自体は居心地の良い場である。



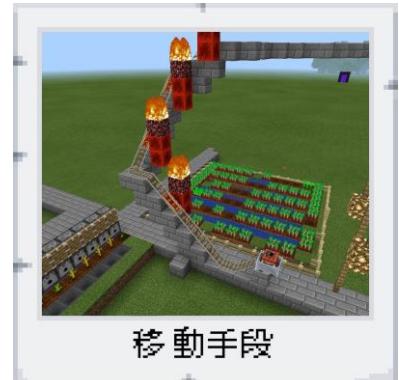
# A児(7年生)

## ■ねらい

少人数での活動を通して、自分の得意なことが誰かの役に立つことに気づき、教えることを通して自己肯定感を高めることができる。

## ■配慮・手立て

- ・事前にA児と街づくりの構想を練る。レッドストーンを使ったもの等も、アイディアを出してもらう。
- ・聴覚情報だけだと、寝てしまうことがあるので、PowerPoint等の視覚情報を多用する。



移動手段

# B児(5年生)

## ■特性など

- ・他人との関わりにおいて、問題行動が幼少期より多かった。
- ・昨年度、支援学級に在籍したことで本人にとっての【安心できる港】としての場所が増え、精神的にも安定し、問題行動がかなり減った。
- ・それでも、自分中心なのは変わらず。うそをついたり、自分の都合の良い方に、相手を誘導しようとする行動もみられる。



# B児(5年生)

## ■ねらい

自分勝手な行動ばかりせず、下級生の頼みごとを手伝う等、相手の気持ちも考えながら活動することができる。



## ■配慮・手立て

- A児だけでなく、B児にも街づくりのアイディアを出してもらい、意見を取り入れることで今回の学習の中 心人物であると意識できるようにする。
- 操作に慣れているため、勝手にPCをいじってしまうので、事前に起動の手伝いを頼んで触れさせておく。
- 『STOP』カードをキーボードの上に置き、視覚情報で訴えるようにしたり、場の設定を工夫したりする。



# C児(3年生)

## ■特性など

- ・場面緘默があり、交流学級では全く話をしない。
- ・支援学級では、好きなこと（恐竜や生物のこと等）を一方的にしゃべる。しかし、今回同じクラスのD児がいることで、支援学級でも話さなくなってしまった。
- ・恐竜を粘土で作るなど、立体作品を作るのがとても上手い。昨年度、マインクラフトをA児に紹介してもらったところ、その後すぐに、はまった。
- ・障害特性上、相手の気持ちを考えることが難しい。マインクラフトでも、みんなで何か作るというより、自分がやりたいことを優先してしまう。



# C児(3年生)

## ■ねらい

自分の好きなことだけをするのではなく、コミュニケーションをとる活動を通して、自分が作ったものが、みんなの街づくりに役立つていて気に気づくことができる。



以前からこのアプリ『タスクボイス』を使用しているので、C児にとっては、これが使いやすい様子。

## ■配慮・手立て

- 話さなくともコミュニケーションがとれるように、ICT(タブレットのアプリ)やホワイトボードを活用する。
- 聴覚情報だけだと集中できないので、説明する際にもPower Point等の視覚支援を多用する。



手を止めてほしい時には、言葉での指示よりも視覚情報で提示する配慮。

# D児(3年生)

## ■特性など

- ・場面緘默があり、ほとんどしゃべらない。しゃべるのは、朝のあいさつや、担任に耳打ちするときくらい。
- ・本人がコミュニケーションをとりたいときには、ノート等に筆談をしている。
- ・普段から不安が強く、新しいことが苦手。通常学級では常に緊張しており、安心できていない。
- ・マインクラフトは今回が初めてだが、もともとゲームは好きで、初回から興味を示していた。



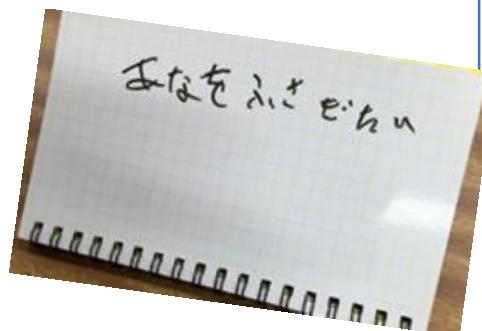
# D児(3年生)

## ■ねらい

小集団での活動を通して、他の子たちとコミュニケーションをとることの楽しさを知り、自分の意見を伝えたり、相手に頼むことができる。

## ■配慮・手立て

- しゃべらなくともコミュニケーションがとれるように、ツールとしてICTを活用する。
- 長い言葉を使う時には、ホワイトボードを活用。



アプリ『タスクボイス』を使用  
※相手にすぐ聞きたい時に、打ち込むのが大変！



※変更  
教師がPower Pointで、音声ボタンを自作。相手を気軽に呼びやすくなった。

# 全体への配慮は？

## 失敗例1

PCが置いてある場で話をするとき、どうしてもいじりたくなってしまう。

## 変更 場の構造化



説明を聞く場

配慮

配慮

活動する場



# 全体への配慮は？

## 配慮

毎時間、学習の流れや、不適応行動など意識させたいときにPowerPointで提示。

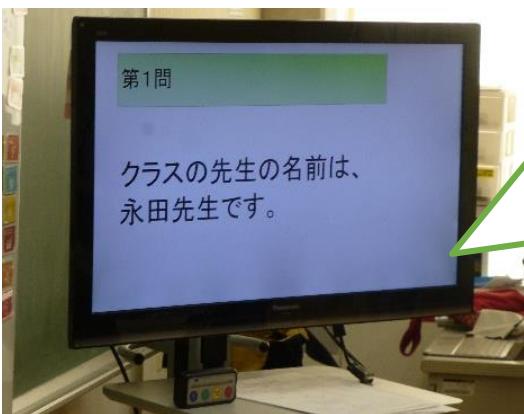
視覚情報を入れることで、注意が画面に向いている。

だれかが作ったものを、こわしていいかな？



## 配慮

相手を知るための SSTゲーム。  
場面緘黙の子も、  
指さしながら相手を  
指示示すことができる  
ように配慮した。



個の特性を把握して支援をしていても、実際に授業を進めていくうちに見えてくる課題もある。

その都度、軌道修正をしながら、  
個への支援と全体の支援を考えながら進めていく。

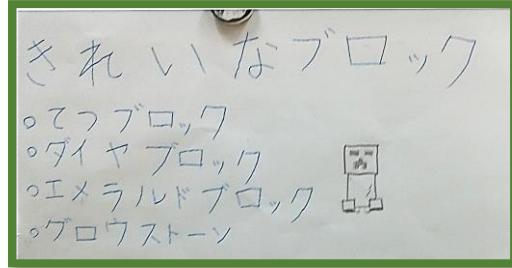
# 成果は？

## A児(7年生)

- ・支援学級での学習には参加できていないが、毎週のマイクラの活動には参加してくれた。
- ・休み時間などに、街の整備を手伝ってくれた。

## B児(5年生)

- ・B児のアイデアも取り入れるようにしていくと、自宅でブロックの種類等をメモしたものを、自ら持ってきてくれるようになる。

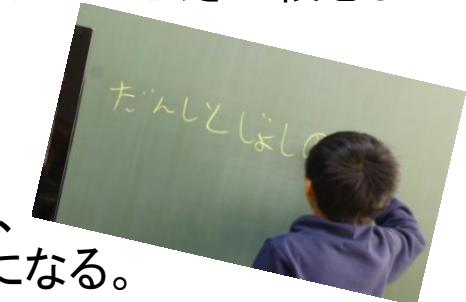


## C児(3年生)

- ・スポーンした動物やエンチャントした物を見てもらいたい時には、相手をつついで知らせていた。
- ・嫌なことをされた時には、相手を叩くという行動がみられた。(不適切ではあるが、関わりを持っていた。)

## D児(3年生)

- ・ボタンをおして声をかけたり、筆談したりして、手伝ってほしいとたくさん頼むようになる。
- ・「駅が作りたい」  
「もっと線路をのばしたい」などと、自己主張するようになる。



# 今後取り組んでいきたいことは？

- ・クリエイティブモードだけでなく、サバイバルモードの活用
- ・codebuilderを活用した自立活動でのプログラミング学習

など…



本学園で実践した例は、あくまで例です。  
特別支援学級の自立活動で活用してみたいと考えた先生方は、各学校の子どもたちの実態に合わせて、個への支援、全体の支援を検討してほしいと思います。